



校報

斐伊の子

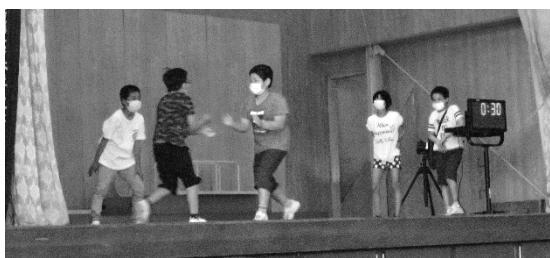
めざす子ども像：学び合う子・助け合う子・元気な子

木次中学校区のめざす子ども像

- ・ふるさとに愛着をもち、多様な他者と進んで関わる子ども
- ・心身ともに健康で、しなやかさとたくましさのある子ども
- ・自ら判断し、生き生きと表現する子ども

令和2年6月23日 発行 文責：校長

なかよし班開きをしました



【ジェスチャーゲームで出題する6年生】



【1年生の入場を拍手で迎えました】



【ジェスチャーゲームの答えを班で相談しました】

斐伊小学校では、全校を縦割りにした異学年交流班「なかよし班」を編成しています。各班7、8名で構成されており、全部で18班あります。昼休みが終わると、「なかよし班」ごとに集まって掃除をします。上級生が下級生に掃除の仕方を教えながら取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度はまだ実施できていませんが、なかよし班で一緒に遊ぶ日もあります。

「なかよし班」を6班ずつまとめることで、赤、青、黄の3つの組にしています。運動会の色別チームにもなりますが、日常的には、色別チームで給食当番を行います。これについても、新型コロナウイルス感染症の影響で分散給食をしているため、今年度は見ることはできませんが、例年ならば、上級生が下級生に役割を教えたり、重たい食缶や食器かごを協力して運んだりする姿が見られます。

以上のように、「なかよし班」での活動をとおして、リーダーシップやフォロワーシップ、思いやり、協力、譲り合い、助け合いなど、子どもたちは様々なことを学びます。

5月29日（金）、当初の計画から1年半遅れで「なかよし班開き」を行いました。6年生が中心になって企画・運営をしました。班対抗で行ったジェスチャーゲームの商品が足りなくなるというハプニングがありましたが、担任の力を借りることなく、自分たちで判断してピンチを切り抜けました。最高学年らしい、とても頼もしい姿でした。感染症対策で制約がある中ですが、これからの「なかよし班」活動をとおして子どもたちが成長する姿を楽しみに見守っていきます。

地域講師さんとともに

「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル～『学校の新しい生活様式～』(2020.5.22 文部科学省)によると、島根県の感染レベルは「レベル1」にあたります。「レベル1」の地域にある学校では、感染リスクが高いと言われている合唱や管楽器演奏、調理実習などであっても、十分な感染症対策を行った上で実施することができます。また、最近では、熱中症が心配されていることから、状況に応じて、マスクを外してもよいとされています。

以上のような状況になったことから、本校でもようやく地域の名人の方々に講師を依頼することができるようになりました。紹介します。



【どんどん植えるぞ】

5月25日(月)に5年生が田植えをしました。田んぼは、昨年度まで本校の地域コーディネーターをしてくださっていた多根さんが提供してくださいました。

田んぼに足を入れるのに時間がかかった子、サッと入って要領よく植え進む子、土の感触が気に入って歓声を上げる子、足が抜けなくて苦戦する子など、いろいろな姿がありました。

田植え名人のみなさん

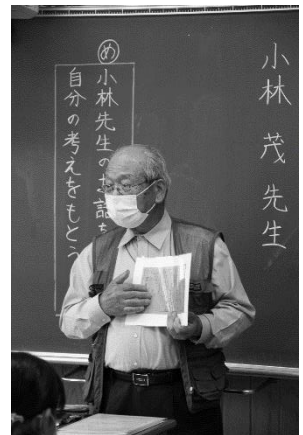
多根 章生さん(菟原) 小田川 清さん(北側)
佐藤 重夫さん(北側) 藤原 恭久さん(浜谷)
足野 隆二さん(浜谷) 高橋 一さん(上口)

ありがとうございました!

6月4日(木)に、6年生が戦争講話を聴きました。昨年度に続いて、西日登にお住まいで、雲南市遺族会副会長の小林 茂さんを講師としてお招きしました。

小林さんには、戦時中や戦後の様子、戦争に対する考え、平和への願いなどをお話いただきました。

平和を願う小林さんのお話は、子どもたちの心を揺さぶったようで、お話が終わると、6年生は次々に手を挙げ、感じたことや考えたことを発表しました。その姿を見て、「(新型コロナウイルス感染症で大変な年ではあるけれど)なんとかして、この子たちを広島への修学旅行に連れて行ってやりたい。」と思いました。



6月9日(火)に、3年生がブドウ畑の見学に出かけました。本校職員の橋本 博地域コーディネーターのブドウ畑です。

3年生は、橋本地域コーディネーターの話を聴きながら、興味津々でブドウ棚を見上げていました。



【たくさん実がついているね】

7月の主な予定

- 6日(月)～ 走ろう週間
- 7日(火) 計算会、学習公開、学級懇談会
- 10日(金) スクールカウンセラー来校日
- 14日(火) 書取会
- 29日(水) 給食最終日
- 30日(木) 3時間授業
- 31日(金) 終業式、3時間授業